

入札状況の常時監視報告書 (平成30年度)

(概要版)

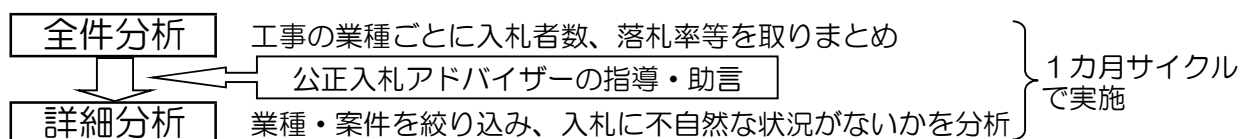
令和元年7月 名古屋市

1 入札状況の常時監視の概要 (2~5ページ)

(1) 目的

- ・ 談合等不正行為の早期発見と抑止
- ・ 監視結果の公表による本市の入札・契約手続の透明性・公正性の向上

(2) 内容



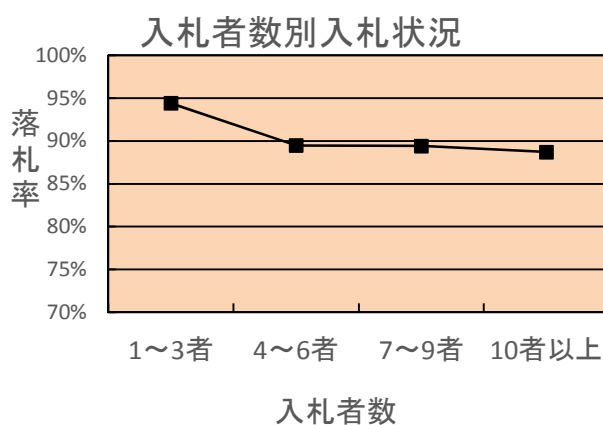
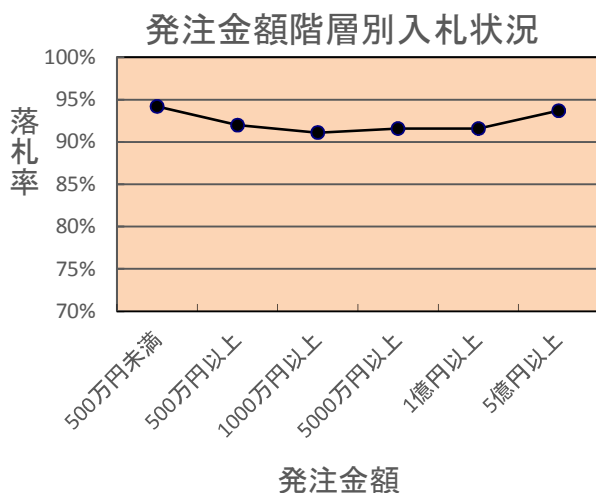
2 全件分析の概要 (6~13ページ)

- ・ 入札件数2,314件（29業種）のうち1,663件（約72%）が一般競争入札

区分	平均入札者数	平均落札率
一般競争入札	7.7者	91.1%
指名競争入札	4.0者	92.6%

<状況>

- ・ 平均入札者数…一般競争入札が指名競争入札に比べ多い。
- ・ 平均落札率…
 - ・ 一般競争入札が指名競争入札に比べ低い。
 - ・ 発注金額階層別では、500万円以上5億円未満の工事においては、落札率に大きな差は見られなかった。
 - ・ 入札者数が多いほど低い傾向にある。



3 詳細分析の概要

(14～27ページ)

(1) 業種・案件を絞り込んだ個別業種分析 (14～19ページ)

「配水管布設」「管」「舗装」の3業種について、平成29年度と平成30年度の状況を比較分析したところ、管工事において平均入札者数が10.1者少なくなっているものの、それ以外の平均入札者数及び平均落札率に大きな差は見られなかった。

(2) 工事の内容に着目した特殊要因分析 (20～26ページ)

入札者数や、落札率に影響を与えるような特殊要因（単価契約、機械・電気設備工事、地下鉄軌道関連工事、入札不調の発生状況、再入札工事）について分析したところ、特殊要因ごとに平均入札者数と平均落札率の傾向に差が見られた。

(3) 積算内訳書の抽出確認 (27ページ)

事業者が入札時に提出した積算内訳書の内容について確認をした結果、一部に不自然な記載が発見されたため調査を行ったが、談合の事実は確認できなかった。

4 まとめ

(28ページ)

○ 平成30年度の傾向を前年度と比較すると、

① 平均入札者数

- ・ 入札全体では、前年度と比べて1.5者少なくなっている。
- ・ 前年度と同様、一般競争入札の方が指名競争入札に比べて多くなっており、その差は縮小した。
(前年度 5.5者 → 平成30年度 3.7者)

② 平均落札率

- ・ 入札全体では、前年度と比べて0.5ポイント高くなっている。
- ・ 発注金額階層別では、500万円未満の小規模工事及び5億円以上の大規模工事においてはやや高いものの、500万円以上5億円未満の工事においては発注金額階層別の平均落札率に大きな差は見られなかった。
- ・ 前年度と同様、一般競争入札の方が指名競争入札と比べて低くなっており、その差は拡大した。
(前年度 1.1ポイント → 平成30年度 1.5ポイント)

③ 平均入札者数と平均落札率の関係

- ・ 入札全体では、前年度と同様、入札者数が多いほど落札率が低い傾向が見られる。

ということが確認された。

○ 分析の結果、談合等不正行為の事実の確認に至った入札はなかったが、本常時監視に関する情報提供を通じ、関係機関とも連携を図りながら、今後とも談合等不正行為のない公正な入札確保に努めていきたい。